

緊急声明

「県立北部病院産婦人科 医師4人以上の体制を」

県立北部病院の産婦人科を再開させるには、4人以上の産婦人科医師が必要です。休診に至るまでの県立北部病院産婦人科は、個人開業医ではとりあげられない、いわゆるハイリスクのお産を行う施設であり、産婦人科的な救急疾患（子宮外妊娠による大出血など）の患者を救命する救急病院でした。

そのために3名の産婦人科医師が二十四時間三百六十五日働いていました。産婦人科医師にとっては三日に一度は病院に宿泊し、一晩寝ないで働いた後もそのまま外来や手術をするという厳しい職場環境です。使命感を持って働いていた医師たちも過酷な仕事を幾年も続けたあと、働き盛りの年齢なのに退職してしまい、休診となりました。県立北部病院を退職した産婦人科医師の言葉を紹介します。

「四十代半ばにして死神の足音を聞いてしまった」

「子供をとりあげる仕事をしながら、自分の子供たちは知らないうちに（家庭で触れ合う時間もないままに）いつの間にか大きくなってしまいました。

三日に一度は病院に泊まり（それ以外の日もほとんど）病院にいましたので。」

医師も人間です。人間としての命があり、個人としての生活があります。

命の危険を感じるような、個人としての生活がない病院には、医師は定着しません。以前と同じ産婦人科医師3人体制で再開したとしても、前と同様の過酷な勤務体制が再現され、医師が退職し再び休診となるだけです。そもそも、全国的な産婦人科医不足の中、そのような病院で働きたいという医師があらわれるでしょうか。

再開、継続のためには、産婦人科医師数の増加は絶対に必要なのです。

県立北部病院では、産婦人科医師を4人以上にした後、ハイリスクのお産と産科救急を本格的に再開させようとしています。現在2人の産婦人科医師が着任しており、婦人科診療のみを実施していますが、その2人の産婦人科医師を中心に病院を挙げて産科再開プロジェクトを進めています。

北部地域の母と子の命を守りつつ、以前の轍を踏まないで済むよう、県外で働いている現役の産婦人科医やこれから産婦人科専門医をめざす若手医師がこの病院、この地域でぜひ働きたい」と思えるような、母と子と医療者が共に幸せを分かち合える病院、地域を作りたいものです。

みなさんのご理解とご協力を、どうぞお願いいたします。